
鉄のラインバレル ～白銀の詩～

鋼鉄の廃人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鉄のラインバレル ～白銀の詩～

【Nコード】

N3121R

【作者名】

鋼鉄の廃人

【あらすじ】

何事にも無気力で人生を適当に過ごしていた俺はある日。学校帰りによった森の中で正体不明の飛行物体の落下に巻き込まれた・・・次に関目を目を覚ましたときに飛び込んできたのは巨大なロボットと銀色の髪をした美少女だった。この出会いが後に、自分の人生を大きく狂わせるとは、この時まで知らなかった

「挨拶」

皆さん初めまして。今回この二次創作小説『鉄のラインバレル』白銀の詩』を書かせていただくことになりました鋼鉄の廃人ですまあ、この小説を書こうと思ったのは、原作の機体は出るのに原作自体の二次創作ない……ということとで色々調べ、某画像投稿サイトにかなり良い機体デザインがあつたので腹を決めて投稿させていただきます

所々作者の妄想、勘違いなどがあるかもしれませんが、これからよろしく願いますm(_____)m

ちなみに、作者の原作知識は漫画16巻とアニメ全話ですこれを踏まえてごちゃ混ぜのオリジナル主人公ものを書きたいと思っています

では改めて、よろしく願います！m(_____)m

序章

未来、夢、希望

俺にはそんなものはどうでもよかった

いつも俺は無気力だった……なにをするにも興味を持てず
中途半端に終わってしまう

両親は2年前に交通事故で他界。せめて生活だけは普通に暮らすためにバイトを続けている。学校もそれなり通い成績も悪くない

それでも俺は無気力だった。高校に上がった頃はいろんな奴が話しかけてきたが無気力だった俺はそれを冷たくあしらひ、やがて誰も話しかけてくることはなかった

俺にとっては何もかもがどうでもよかったのだ。別に金持ちになりたいとか偉くなりたいとか、そんな夢は考えるだけ無駄なのだと分かっていたからだ

教師たちは「努力しなければ報われない」というが、所詮はただの戯れ言……努力して報われた人間なんてほんの一握りだけだ

結局、人生なるようにしかならないのさ

これから、その先も……俺『あかつき 紅月 蓮』の人生は……

キンコンカンコン
俺の通う『菱見高校』のチャイムが鳴り、号令と同時に今日の授業が終了した

「ふう……」
体の力を一気に解放させ息を吐く。周りではガヤガヤと騒ぎだしていた

早急に帰宅の支度を整え、教室を出る

ああ・・・・・・・・やっぱり退屈だ

よりいっそう無気力感が増したのを感じ、俺は再び溜め息を吐いた
変わらない生活。 変わらない日常。 変わらない人生
つまらない。俺は心の中で何かを求めているのだろうか？

どうでもいい

自分の欲すら、俺には興味がなかった

今日は久し振りにバイトは休み。さっさと家に帰って寝よう
そう考えた俺は家からの近道である神社の森林を抜けようと入って
いった

・ この選択が、自分の人生を狂わせる原因になるとつい知らず・・・
・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3121r/>

鉄のラインバレル ～白銀の詩～

2011年10月8日19時52分発行